

●日本ジャーナリズムの成立から戦前期までを人物から俯瞰●

ジャーナリスト人名事典

明治～戦前編

山田 健太 編 A5・440頁 定価(本体13,500円+税) ISBN978-4-8169-2498-9 2014年9月刊行

明治・大正・昭和戦前期に活躍した
「ジャーナリスト」のさががけ1,222人を収録

- 日本ジャーナリズムの黎明期から戦前期に活躍したジャーナリストを収録する人名事典です。
- 言論人、新聞創刊者や主筆、雑誌記者、挿絵画家など1,222人についてプロフィールを掲載しました。
- 「人名索引」「事項名索引」付き。

【収録人物例】

伊東巳代治/犬養毅/上田碩三/緒方竹虎/尾崎行雄/
岸田吟香/陸羯南/黒岩涙香/ジョセフ・ヒコ/末広鉄腸/
高島華宵/徳富蘇峰/鳥居素川/中江兆民/夏目漱石/
成島柳北/長谷川如是閑/原敬/福地桜痴/福地源一郎/
宮武外骨/村山龍平/柳河春三 …ほか

編者プロフィール 山田 健太 やまだ・けんた

青山学院大学法学部卒。専修大学文学部教授。日本マス・コミュニケーション学会(理事)、日本出版学会(理事)、日本編集者学会(監事)、日本公法学会、国際人権法学会に所属。
著書は「法とジャーナリズム 第2版」(学陽書房、2010)、「ジャーナリズムの行方」(三省堂、2011)、「言論の自由」(ミネルヴァ書房、2012)、「3.11とメディア」(トランスビュー、2013)、「3.11の記録 東日本大震災資料総覧 震災篇」[同 原発事故篇](共編 日外アソシエーツ、2013)「同 テレビ特集番組篇」(共編 日外アソシエーツ、2014)ほか多数。

池辺 三山

いけべ・さんざん

内容見本

新聞人、東京朝日新聞主筆

[生年月日] 文久4年(1864年)2月5日

[没年月日] 明治45年(1912年)2月28日

[出生地] 肥後国熊本京町字土小路(熊本県熊本市)

[本名] 池辺吉太郎(いけべ・きちたろう)

[別名等] 字=任道、諱=重遠、別号=鉄崑崙、無字庵主人、木生、芙蓉生

[学歴] 慶応義塾(明治16年)中退

[家族] 長男=池辺一郎(洋画家)、父=池辺吉十郎(教育家)、孫=富永健一(社会学者)

肥後熊本藩士・池辺吉十郎の長男。明治10年父が西郷隆盛の挙

21年柴四朗(東海散士)の要請により大阪で「経世評論」を創刊し主筆となるが、23年東京に戻って新聞「日本」寄稿者として活躍。25~28年欧州を旅行し、海外から日清戦争の外交を批判した「巴里通信」を「日本」に寄稿、国際ジャーナリズムの先駆といわれる。29年高橋健三の招請で「大阪朝日新聞」主筆に就任。「文章は平明で達意であるべきだ」とし、以降の記事のスタイルを変え、朝日の機構と人と紙面の近代化を図った。30年「東京朝日新聞」主筆に転じて外交問題を中心に執筆し、特に北清事変や日露戦争の報道で盛名を高めた。その社説は大いに注意を引き、三山、蘇峯、羯南と並び称された。また紙面の刷新を図り、夏目漱石の「虞美人草」、二葉亭四迷の「其面影」を連載し、杉村楚人冠、渋川玄耳らを社員に招聘するなど、同紙の発展に貢献した。44年客員に退いたあとは「中央公論」などに人物評論を執筆。他の著書に「明治維新三大政治家」「三山遺芳」などがある。

■続刊

ジャーナリスト人名事典 戦後～現代編

「ジャーナリスト人名事典」編集委員会 編

A5・440頁 定価(本体13,500円+税)


ISBN978-4-8169-2499-6 2014年12月刊行

2016.10

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	ジャーナリスト人名事典 明治～戦前編	冊
		定価(本体13,500円+税) ISBN978-4-8169-2498-9	
		 9784816924989	